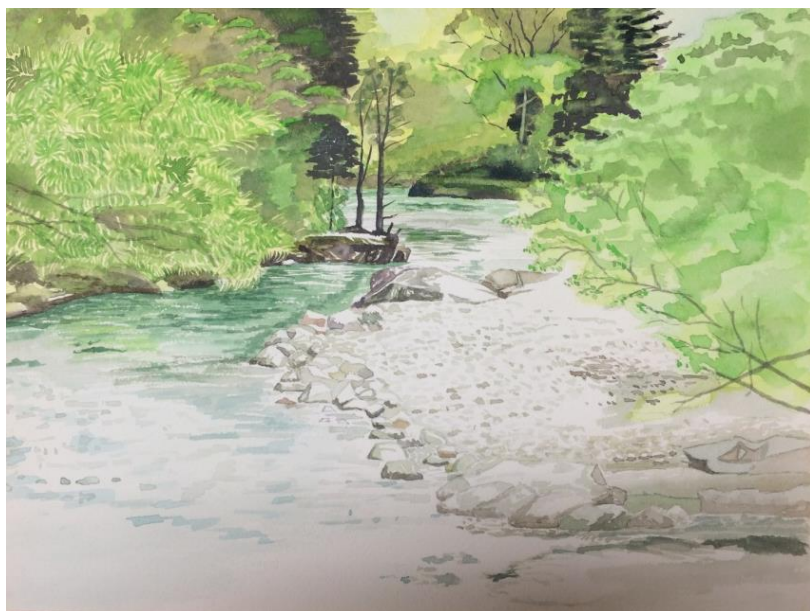


かえるのうた

第8号 2017・3月

ほんにかえるプロジェクト発行
汪楠責任編集



画：M・Tさん

元受刑者のかえるメイトが服役中に春の奥入瀬の写真を参考に書き上げた力作です。

刑務所問題について教皇さまの発信された手紙を紹介します。

希望の灯りを決して 消してはならない

受刑者の皆さん、私は皆さんの傍で、皆さんのために祈っています。私は、皆さんの顔をじっと見つめている私自身の姿を思い浮かべています。たくさんの痛み、多くの重荷や失望が皆さんのまなざしの中に感じられます。しかし同時に希望の光も垣間見えます。皆さんが自分自身の心の中を見つめるとき、この光を決して消さないように努めていただきたいのです。

私たちにもその炎を絶やさない義務があります。これは、皆さんの人格の方が、勾留中であっても大切に扱われるよう、また人間としての尊厳は、常に第一に考えられるべきことであるということ、皆さんのために努める責任と可能性を持つ者の義務でもあるのです。

皆さんにはよく考える機会を持つよう努めて欲しいのです。よく考えることで皆さんが人間性ある方向に導かれるように。鋼鉄で覆われた扉を人間性が通り抜けてくるような、皆さん一人一

人にとってのより良い将来への希望を心が決してはねのけることが無いような、そのような道ができ、皆さんがそこに導かれますように。



教皇フランシスコ

そのためには、文化的転換が急務であると思います。転換とは、刑によって人生に「終わり」という文字が書かれると思うことをやめる。刑事裁判の出口のない道をはねつけること。そして、報いるだけの裁きに甘んじないことです。

すなわち、赦しの裁きや社会復帰への具体的な展望に関心を持つことです。終身刑は、問題解決の方法ではなく、解決されるべき問題なのです。なぜならば、尊厳が

完全に閉じ込められてしまった場合、やり直すとか贖いの力を信じるという余地が社会の中になくなってしまからです。

神様のもとには、いつでもやり直す場所があります。慰められ許される場所があります。皆さんのこれからの歩み、皆さんの反省、そして皆さんの希望を私は神様に託します。皆さん一人一人に、そして皆さんの親しい人々に私の祝福をおくります。私のためにも祈ってください。

2017年1月17日



このメッセージは教皇さまがパドヴァ(イタリア)の刑務所の指導司祭に宛てて書かれた手紙です。全世界に向けて発信されたものであり、非常に示唆に富み、影響力があります。

ほんにかえるプロジェクトは更生支援団体です。当然ながら更生とは何かを常に考え続けています。い

ま、先進国では自由を拘束するだけの刑罰(自由刑)から、いかに更生を助ける(教育刑)かに移行していません。というも厳しく罰するだけでは犯罪の抑止力にならないことが世界的に理解されるようになったからです。教皇さまの手紙にもあるように、更生するために必要なのは個人の尊厳の回復と、希望の光を決して絶やさないことです。

報いるだけの裁きとはまさに今の日本の司法全体にはびこる問題点であり、厳しくすればもう刑務所に戻ることはないだろうという考えです。残念ながら昨今の厳罰化ではむしろ再犯率を上昇させています。教皇さまは私たちに犯罪者とどう接するべきかを論し、赦しが犯罪者と私たち社会にいるすべての人々を救うことを教えています。

教皇は、カトリックの最高位聖職者の称号。全世界のカトリック教徒の精神的指導者です。初代ペトロから数えて、フランシスコは第266代目の教皇です。

春招く 桜花あり 芽をふきて
咲くを惜しまず 散るを惜しまん

代表 田中伸彦

春が近づいて来ました。

皆さん如何お過ごしでしょうか。私は東京の外れで路上に暮らす人たちが、生きにくい思いを抱え暮らす人たちと関わりながら、「ほんにかえるプロジェクト」に参加しています。

様々な事情で路上に暮らす人と、自らの行ないで刑に服す人たちが、日々抱えているやりきれない気持ちたちが少しでも和らぐことが出来るならばと、微力ながら活動を続けています。

毎年この時期になると路上で暮らす人たちが、路上から出て住まいを持った人たちと一緒に、近くの公園で花見の宴を開きます。この日だけは普段顔を合わせない人たちと、一同に会しにて楽しい時を過す事が出来ます。

受刑者の方がたが、桜花を見る機会があれば幸いですが、私には花見の酒は送れませんが、読みたい本や手紙くらいは送る事が出来ます。まだまだ力不足で至らない所がありますが、これからもお付き合いを。

どうしてこうなんだろう

副代表 井手愛子 s. c. q.

「でる所に出ますから」、大きな組織の責任者ともなると、こういう台詞の一つや二つは言われた経験があるかも知れない。最初何のことだか解らなかった。

出る所とはどこだ、何のために、と黙考していた。すると相手はさらに念を押ししてきた。「いいですね」。訴訟か、裁判か、やっと理解した。時間がかかるだろうし好みではない。

しかし、相手もそこまで言うからには、相当の覚悟があるのだろう。それなら受けて立つしかない。静かに「どうぞ」と言った。ある時は「お受けします」と覚悟の程を言外にこめて一言いった。同席した人はあの一言には凄みがありましたね、しびれました、と観客のようなことを言う。「いや、そんなつもりでは・・・」と事なきをえた。

責任者にとって大事なのは危機管理だと知る。この事があってから4年間、とある“経営研究会”に所属し、経営のイロハから難事件の事例研究まで、判例を引きながら学ん

だ。役にたった。困難な状況が出来（しゅったい）すると、裁判と判決を想定できるようになり、解決へのいとぐちが見えるようになった。

最終的には、こちらの権利は守る、しかし相手の権利も尊重するという立ち位置を得られたのが、なによりであった。

ところが最近、“出る所に出ましよう”と言う言葉をまた聞くようになった。それも、複数回。プロジェクトの対応が詐欺であるという。創立当初の支援内容をいくつか変更したのは確かだ。変更の事由も説明した。不服で退会する場合には預かり金（切手を含む）残額を返却する旨もうたっている。

詐欺とは、他人にその人格、職業を信じ込ませ、信頼関係や信仰心、恐怖心や権威等にて被害者を洗脳または精神的に縛ることにより疑う余地を与えず、心理的な駆け引きにより金品を騙し取る行為である。

-ウイキペディア-

詐欺とは犯罪である。調べてみると上記枠内の如し。よく知られているのが「オレオレ詐欺」。子供や孫に成りすまして、相手の心情を巧みに

つき、金品を騙し取る。昨年の発生件数約3000件、被害総額約42億円。明確な悪意がある。

事務局の名誉のために一言申し上げるなら、設立当初から会員の入金を総て記録し、一人ひとりの金銭出納帳をつけている。実に詳細で正確だ。

人様の大事なお金を預かる者の、あるべき姿だと考えている。それでも何人かの会員には、記載場所が違ったり、記憶違いだったり、そのため、返信が遅れたりして迷惑をかけたことがある。ご容赦ください。

旧約聖書に見られる詐欺

“悪事を企む詐欺を行う者”

“暴力と詐欺とが絶え間ない”

“その舌で詐欺をしくみ”

“詐欺をする者は神の家に住まない、嘘を言う者は神の目に耐えられない” —詩篇—

詐欺と言われて、内容がつかめず、読んだり調べたりしているうちに、詐欺とは人をだまして悪を行うことだと理解しました。

「ほんにかえるプロジェクト」は単なる便利屋ではありません。犯罪者の自立更生支援を一義とします。更生とは人権の回復です。人権の基

盤は信頼です。

不備があったら、素直に指摘してください。誠意をもって対応します。被收容者会員の皆様とトラブルとき、何故こうも簡単に詐欺だ裁判だという言葉が出てくるのか、不思議に思います。おそらく、詐欺ったり詐欺られたりが至近距離にあったのかも知れません。

失敗は誰にでもある、という人間理解の大前提に立ちましょう。ゆるしが必要です。ゆるしは和解への道を拓きます。

否定的な視野を肯定的な視野に切り替えてみましょう。

私たちの間に、質の高い“信頼”をとりもどし、さらに深く構築していくことができますように！

かえるメイトの声

事務局には毎日かえるメイトからのお手紙が届きます。厳しい意見を選んで「かえるのうた」に載せてきましたが、それはあくまでも少数であり、私たちはとても感謝しておりますという声が多数寄せられました。自画自賛を避けたかったのですが、公平の観点から感謝の声も載せることにいたしました。

(前略)日増しに寒さが厳てまいりましたが、かえるプロジェクトの皆様のおかげで、私達かえるメイトも元気と喜びを頂いております。

依頼の件はありがとうございます。また、懺も受け取りました。重ねてお礼を申し上げます。

(中略)人それぞれの生まれや環境、子どもの頃の体験や親の育て方によって、千差万別の人生があって、考え方も違いますが、人間や動物、誰もが持っている「愛」によって同体になり、共に生きられる「道」を探し求めています。

自分がこの世に生まれてきて、人生すべきことは何かを心得て働くことができることが最大の生きがいになるのではないかと思います。私はかえるプロジェクトに共感し、かえるメイトになって楽しみや喜びを得ました。

(前略)いつもお世話になっていきます。依頼への対応いつもありがとうございます。

今、私を支えてくださっている人は本田さんを始め、プロジェクトの皆様です。他にも支えてくれる人はいますが、現在は連絡が取れなかったり、会いたいののに会えなかったり

なので、プロジェクトのみなさんの支えがとても嬉しいです。

正直、私も身体が丈夫な方ではありませんし、アスペルガーもあるので、人との付き合い方はとても苦手です。精神的なものは他人には理解しがたく、私の気持ちが伝わらないと悲しくなりますし、表には出しませんが、凹むことも多々あります。

こんな所にいるのは誰のせいでもなく、私自身のせいなので、自分の過去を振り返り、反省の日々です。

(中略)正直、事務局長がダメ人間でも、私たちの預り金で飲みに行かれても別に私はかまわないと思います。だって汪さんはそれ以上に私達のために身も心もお金も削ってくれているので……

本田さんの身体が丈夫ではないのにずっと私たちのために活動してくれているので、何をされたって私は文句を言いませんよ。

プロジェクトが大変な今、わがままを言うつもりはありません。プロジェクトのために退会するようと言われるれば、私は受け入れてしまうと思います。とても悲しいことですが……

本音としては、今後とも続けさせてほしいし、出所したら、どんな形であれ、プロジェクトに参加したいと考えています。

(前略)「かえるのうた」に私の手紙が載っていて少し驚きましたが、私の思いが届いているとわかり嬉しかったです。助成金が決まるとよいですね。

Aさんのような方は多くいるのでしょうか？プロジェクトの設立を知った時から、このような方もいるであろうことはわかっていたのですが、さすがにここまでの強者が現れることまでは予想していませんでしたので、少しびっくりしています。

まあ、でも受刑者という立場で言えば、金を払えば何を要求しても良いという考え方の人が多いのも事実です。

そのことを踏まえても、Aさんの理屈は理解に苦みます。そもそも我々被支援者に与えられている決定権は、入会するか、しないか、続けるか、続けないかしかないので

す。値上げに関しても、それを詐欺だというのはならば、一般企業が材料高騰によって商品を値上げするのも詐欺になってしまいます。

ついでに言えば、刑務所の日用品(販売物品)の値上げは受け入れられるのに、なぜプロジェクトの値上げを受け入れられないのでしょうか？不思議ですね。

まあ、でもこれも私の価値観でしかないので、AさんにはAさんの価

値観や考え方があるのでしょうかね。ただ人に迷惑をかけないようにすることは必要でしょうけどね。

汪さんはこの活動については自己満足と言われていますね。確かにそのような側面があることも否定はできませんね。しかし誰にでもできることではありません。信念がなければ、人も集まらないでしょうし、組織として成立しないでしょう。また汪さんの受刑経験なくして成立し得ないことは明白です。

(中略)現状改善の意見をというのですが、簡単にいえば、資金をどう集めるか、これに尽きるわけですが、上映会などのイベントのほか、刑務所に関係のある芸能人などの有名人のトークイベントやチャリティーライブなども考えられるのではないのでしょうか。

(中略)もっと現実的な案としては、何らかの事業を立ち上げるというものです。収益性のある活動によってプロジェクトの活動を支えていく。まあオーソドックスなやり方ですが、今の状況ではこの方法が最善なのではないのでしょうか。事業資金はクラウドファンディングなどを利用する手もあります。NPOなどよりも縛りの小さい任意団体だからこそできる方法もあるのではないのでしょうか。(中略)この先、いろいろと大変ではあると思いますが、頑張ってくださいね。

事務局便り

かえるメイトのみなさま、お手紙ありがとうございます。ほんにかえるプロジェクトは当事者参加型の団体です。普段から皆様のご来信を読み、日々考えさせられています。会員からクレームを寄せられ、その一部始終をかえるのうたに載せました。この記事は主に事務局長である私の意見を反映させたものです。というのもほとんどの機関誌は自画自賛ともとれる内容が多く、読んでいてつまらないと思ったから、もっと素直な気持ちで、直面している問題もかえるメイトの皆様と共有できればと思い、掲載しました。

想像以上の反響を呼び、励ましのお手紙をたくさんいただきました。ありがとうございます。しかし、Aさんのような方は少数であり、私たちは本当にプロジェクトに救われ、感謝しています。Aさんのような人がいる所為で活動がダメになるようでしたら本当に許せない。可能な限りそういう人を排除してほしいという意見が多数寄せられました。

このようなお手紙を読んで、かえるのうたの誌面構成上、プロジェクトの活動に賛同し、感謝している多くのかえるメイトの声を反映していない問題に気付き、今月号からはかえるメイトのありのままの声を取り上げていきます。どうぞご寄稿をお願いいたします。

プロジェクトはかえるメイトの助言をいただき、社会に向けて更生支援の重要性を理解していただくための広報活動も行うようになりました。今回は副代表の井手愛子シスターが活動報告をまとめてくださったので、掲載します。

イベント報告

「ほんにかえるプロジェクト」は設立当初から、被収容者の自立更生支援に対して、広く社会一般に呼びかけ、犯罪の成立や背景についての理解を深め、協力を要請していく素地を作りたいと願っています。その主旨を生かす啓発活動の一環として、年間5~6回のイベントを企画しています。これまでの実施状況を報告します。

第1回目 汪楠氏講演会

テーマ 創立のこころ

日時 8月7日(日)13:30

場所 ケベック・カリタス

修道女会 (以後 S. C. Q. と略す)

参加者 64名

汪氏の数奇な運命と長い獄中経験が聴衆にとっては“知らないことばかりだった”と新鮮な驚きでとらえられた。汪氏の説得力のなせる業か、犯罪者が一方的に悪いというこれまでの思いを見直したい。無関心が一番いけないという感想も聴かれた。

支援活動(協力)については本の寄付(圧倒的に多い)・検索文通・本を刑務所に搬送(この後、複数の方に横浜刑務所に月1回の割合で届けていただいている)。

コーヒーブレイクをはさんで、質疑応答。最後は代表田中伸彦氏ご自慢の焼きそばパーティで大盛会でした。

ブレイクは GABRIELAIKO

コロンビア産の上質な豆を1キロずつで焙煎。副代表井手愛子が個人的に立ち上げたブランドです。

価格 一袋(180g) ¥1,200

第2回目 「ライフアズー終身刑を超えて」上映会

日時 11月12日(土)13:00

場所 カリタス女子短期大学

参加者 64名

「かえるのうた6」はその特集号です。参照ください。

上映会の後、汪氏が無期刑で仮釈放のM氏にインタビュー。M氏の喉をつまらせ、一語一語絞り出すように語られた半生に、会場もしーんと聴き入った。

第3回目

「怒羅権をふりかえる」

日時 2017年2月4日(土)13:30

場所 S. C. Q.

参加者 26名

内容 「私はどこに帰るのか」と

言うタイトルで残留孤児を撮り続けてきた内山直樹氏のフィルムを上映。2015年12月23日にNHKBS-1で放映され反響を呼んだ秀作である。反省途上の汪氏がストオリイテラーのように登場する。ばってん、ドラゴンの組旗を背負って疾駆する汪楠も見てみたかとヨ！

次回予告 4月1日 S.C.Q.

渋谷ちづる氏講演 人間関係は親子関係から始まる。「ふれあっていますか」というタイトルでその機微にふれる。

渋谷さんは助産師を長年されてきた方です。受刑者の99%は男性であるというのに、なぜ助産師の方の話聞く必要があるのかと思いの方もいらっしやるかもしれません。その訳は、受刑者の多くは幼少期にトラウマを抱えています。とりわけ母親に愛されなかった、あるいは愛を感じる事ができなかったケースが多い。

親との関係がうまくいかないと人間はその後の人生においても他人との関係を築きにくいように感じます。無償であるはずの愛を受けられなかったことで、人間不信になりやすく、裏切られるかもしれないという思いがあると、他人を信じられなくなり、裏切られる前に裏切ってしまう。この問題を踏まえて渋谷さんに話していただきたいと考え、企画しました。ぜひご参加を。

お知らせ

ほんにかえるプロジェクトは更生支援活動を行っております。財政難により、活動を継続していくのも困難な状態です。その打開策として、昨年から民間企業に対して助成金を申請しましたが、このたび、残念なお知らせメールをいただきました。はい、そうです。助成金はダメでした。

まあ、助成金は他力本願ですから、申請に向けて悩んだのも事実。無理かもしれませんが、受刑者をはじめとする社会弱者と、その支援をしたい有志でこの活動を資金面でも完結させたかった。助成金がダメでも、活動そのものをやめるつもりはありません。私たちの目的は更生支援活動であり、助成金ではありません。

ここで改めてご理解とご支援してくださっている内外の会員様に厚くお礼を申し上げます。助成金なしでここまでやって来られたのは本当に皆様のおかげです。10万円を寄付してくださった方はもちろんですが、なけなしの数百円を寄付してくださった受刑者やホームレスの方にも、その志に感謝とともに、私たちのこの活動の意義を再確認でき、もっと頑張らないとの思いを新たにしました。現実には厳しいですが、頑張りますので、一層のご支援とご鞭撻をお願いいたします。

事務局移転のお知らせ

事務局は下記の住所に移転します。

〒134-0003

東京都江戸川区春江町 5-15-31

ほんにかえるプロジェクト

プロジェクトの事務局は汪の自宅にあります。当初は広い3LDKで一人暮らしを満喫していました。一時はアルツハイマーの父を引き取り、同居していました。それはそれは大変な時期で、介護とはこんなにも大変だなと実感しました。

余談はさておき、こういう活動は家族の理解が必須です。わたし汪は30年間もオーバースティ状態です。今も申請中の身で就労資格がありません。したがって生活費は家族の援助に頼ることになります。そういう事情もありまして、家族の負担を減らすために引っ越すことにしました。

引っ越し先の家は壁も屋根もトタン板の築51年（かなり修繕が必要）の一戸建てです。1階に食器棚やらを置き、事務局もここになりますとかなり窮屈です。床が抜けそうなので、本も大量に処分する必要があります。1室と階段に本棚を作る予定ですが、主に発送できる文庫本を中心に収納する予定です。

事務局移転に伴い、依頼に対しての対応が遅れることも予想されます。ご理解ください。

かえるメイトへ

事務局には日々かえるメイトからお手紙が届きます。入会申込時はどなたも低姿勢で、依頼される際もお礼の言葉を添える方がほとんどです。中には一文もなしで用紙だけで依頼してくる方もいますが、スタッフの体調を気遣うだけのお手紙もあり、励みになっています。

しかし、対応の遅れに対してのイライラのお手紙を寄せられることもあります。更生支援という名目で詐欺行為を働いているといわれることもあります。受刑者は一度でもスイッチが入ると、攻撃モードになり、相手を全否定する傾向にあります。一般社会ではだれかと全面的に対決することはまれで、意見の違いがあるのは当然ですが、主に話し合いで解決する道を選びます。この差がとても大きいように思います。

先日も依頼件数が大きくオーバーし、注意しても受け入れてくれなかった人に退会勧告を出しました。その人に捨て台詞のように言われたのは、せっかく寄付してもらった本を売却や廃棄するのはいかがなものか、寄付した人の気持ちを考えたことがあるのか！と。その後も人格否定の言葉が綴られていました。

ここで釈明します。プロジェクトに寄付された本は大事に保管されています。寄付してくださった方に感謝し、その思いを本とともに受刑者にお届けする努力をしてきました。しかし、寄付本の中にはサインや書き込みがあるために刑務所側

が受け取ってくれないものもあります。不人気のうえ、刑務所内の備え付け図書（官本と言います）に必ずある古典文学もそうですが、不揃いの続き物の小説や漫画も受刑者に送ることができません。ストーリーがわからなくなるからです。そしてあんまりにもコアな専門書もあんまり読まれないので、こういう本は主にブックオフに持ち込み、売却して、その収益を活動費に充てています。売却については複数のチラシに明記していますし、廃棄についても寄付して下さる方から好みに処分して下さって結構ですという言葉をいただいております、皆様のご厚意を無駄にしているわけではありません。

事務局の現状を皆様に十分知らせていないことにも原因があると思います。いま本の在庫が十分にあり、本を送るお金がない状態です。設立当初は 1 人にまとめて何十冊でも送ることができましたが、今はほとんどの刑務所が制限して 1 回は 3 冊しか送ることができません。どうか理解していただきたい。

事務局移転に伴い、さらに本の整理が必要です。この作業が想像以上に苦痛で、足腰に負担をかけるうえ、地味すぎて発狂しそうになると逃げ出す人が続出しています。本の在庫リストがなかなか完成できないのもこういう事情があるからで、財政難の次に私たちを悩ませていきます。心待ちされているかえるメイトのことを考え、努力する所存です。

ほんにかえるプロジェクトは会員を募集しています。正会員の年会費は 3000 円。寄付もお待ちしています。

振込先

ゆうちょ銀行

10160-86239211

他行からの場合

ゆうちょ銀行 018 支店

(普) 8623921

口座名義は

ほんにかえるプロジェクト

ほんにかえるプロジェクトは**ボランティアスタッフを募集**しています。在宅のままでもできるパソコン入力と文通スタッフが特に不足しています。自宅の住所を公開する必要もありません。プライバシー保護に細心の注意を払っております。

プロジェクトの活動資金の捻出の一環としてオリジナル葉書のほかに小冊子も販売するようになりました。第 1 冊目は汪が書いた「私の生い立ち」(A5 サイズ 88 頁)、500 円で販売し、その収益は全額支援活動に充てます。好評につき、手作業で増刷中です。

発行所

〒134-0003 東京都江戸川区
春江町 5-15-31 ほんにかえる
プロジェクト事務局

責任編集 汪楠(わんなん)

電話 080-8811-5465